

<案1> 日本語基礎とキャリア支援の横断プログラム

提案者：佐藤紘司（茨城県立石下紫峰高等学校）

実施校の制度 課程：全日制 学科：普通科 単位履修の仕組み：単位制 対象生徒：1年次 タイプA（滞日期間：数か月～1年程度） 実施形態：少人数（毎年5～10名程度） 主たるプログラム：プログラムB+D 実施する科目：学校設定科目「IS日本語」（2単位） 担当者：教諭 / 日本語指導員（外部団体派遣講師）

1.1 プログラム編成の考え方

（1）「日本語の基礎的知識・技能」の系統的な学習

開発したプログラムは、1年次を対象にした、日本語を体系的に学ぶことを中心にしたものである。そのため、市販の日本語のテキストを採用し、テキストに基づき「日本語基礎」を中心に学ぶ内容で構成した。日本語指導の担当者が代わっても、また、日本語教育を専門としない教員が担当したとしても、同一のテキストで、系統性をもった授業が行えるように編成した。学習した語彙や文法事項を、日常的に活用する力とするためには、日本語指導の中で、生徒の現実の生活や学習場面で遭遇する問題・課題に関連付けて運用練習をするようにする工夫が必要である。このプログラム全体としては、複数のプログラムで構成してある。日本語の基礎的な知識技能を高めるためのプログラムB「日本語基礎」を基軸にしつつ、前半には、プログラムA「生活のための日本語」を関連付けた。また、後半には、学校のキャリア教育活動と連動させ、生徒の現実の課題・問題場面で日本語を運用して社会参加する力を高められるように、プログラムD「日本語プロジェクト」を配置した。

提案校の外国人生徒等の受入状況・日本語指導体制等

茨城県の県立高等学校は各校2～4名の外国人生徒の特例入学者選抜を実施しているが、結城第一高等学校と石下紫峰高等学校（以下、本校）の2校は2022年度入学生から、この特例入学者選抜の募集定員が40名になる。本校では、共通選抜でも外国人生徒が入学しており、定員160名の内、50名弱（約3割）が外国人生徒という生徒の構成となった。これにより、日本語能力として入門レベルの生徒が増加した。また、本校で外国人生徒の指導に長年従事してきた教員（専門：国語、オリジナルのプリントを作成して日本語指導を実践してきた）の退職が重なるという状況もあり、新たな指導体制・指導方法を探ることとなった。

2024年度からは、県の外部団体との協定により日本語指導者の派遣による支援がスタートした。その効果的で円滑な実施のためには、個々の教員に依存した授業運営ではなく指導内容の一貫性と、授業に関する引継ぎのしやすさも求められる。そこで、日本語学習のテキストを採用し、日本語のプログラムを開発することにした。外部団体日本語指導員派遣は本校含めて計7校が指定された。結城第一高等学校が先駆的に採用していた日本語学習のテキスト『まるごと』（国際交流基金）をこの7校でも採用した。その利点として、外部の日本語指導員とのコミュニケーションのみならず、学校間の情報共有がしやすくなることが期待される。また、日本語指導を実施する必要がある学校は増加しており、先進校として本校での取り組みを提供する際、テキストを明示することで、初めて外国人生徒等への日本語指導に取り組む学校や教員には、日本語指導の全体像や内容を具体的にイメージでき、取り組みやすくなると考えられる。

日本語学習のテキストとして、国際交流基金の『まるごと 日本のことばと文化』（以下、『まるごと』）を選定した。『まるごと』は日本語を使ってコミュニケーションができるようになることを目標とする教

材である。また、インターネットが接続された端末から簡単に音声再生できるため、「話す」「聞く」学習用の教材として長けている。滞日期間の短い生徒が、生活場面での口頭コミュニケーションの力を育成するために適した教材である。

実施に当たっては、外部の日本語指導員も含めて担当者がチームとなって、学習進度や成果を共有し、日本語指導以外の場面と日本語学習活動を関連付けるためのアイデアなどについて意見交換する場を設けるなど体制作りも重要となる。

(2) 育みたい「ことばの力」とプログラムの組み合わせ（卒業までの3年間）

対象は、入学段階の日本語の力は、ひらがなやカタカナの学習は終了したが、まだ正確に読み書きできる段階には至っておらず、日常の会話もまだ十分には行えない初級レベルの生徒を中心とする。高校卒業後の進路として、進学や就職を希望しており、3年次までに、志望理由書等の文章を書けるスキルを身に付けることを目指す。1～3年次まで、学校設定科目として2単位の日本語の授業を実施している。1年次には、来日間もない生徒や日本の学校生活経験が短い生徒が社会生活を送る上で必要な日本語の力を高めること、また、日本語の基礎的な力を身に付けることをねらいとする。1年次での学習を土台に、2年次では、読んだり書いたり、スピーチをする等の技能に焦点化して育み、徐々に、3年次で進路選択において求められる自己を表現するための日本語の力を高めていく。そのために、3年間の日本語の授業を下図のようにプログラムを組み合わせ設計する。

提案するプログラムは、1年次（枠で囲んだある部分）に実施するものである。

＜3年間の日本語学習：日本語プログラムの組み合わせ＞

	1年	2年	3年
プログラム A「生活のための日本語」	→		
プログラム B「日本語基礎」	→	→	
プログラム C「技能別日本語」		→	→
プログラム D「日本語プロジェクト」	→	→	→

(3) 外国人生徒等の教育・支援活動（学校全体の取り組み）

日本語の授業に加えて、放課後の課外の日本語指導の時間を設け、日本語能力試験のための学習の支援、日本語学習経験のない生徒の補習を実施している。教科については、複数の教科で取り出し指導やチームティーチングで指導を行っている。また、各年次でキャリア支援の活動を積極的に行っているが、日本語学習との関連付けや母語による活動参加などの機会を設けるようにしている。

＜卒業までの指導・支援の全体＞

	科目(単位)／具体的な支援内容
日本語指導 (単位)	【授業】 （いずれも学校設定科目） 1年次 IS(イズ)日本語（2単位；週2回、各1単位） 2年次 日本語基礎(2単位；週1回、2単位連続) 3年次 日本語発展(2単位；週1回、2単位連続) 【放課後の課外・補習】 ・ 日本語能力試験の学習支援をレベル別で開講(各レベル週1回、夏季休業中も

	実施) ・ 日本語学習経験がほとんどない生徒向けの補習(1年次:4月～8月)
教科学習支援	1年次の国語、社会、理科、保健体育の各科目で取り出しまたはチームティーチングでの授業。英語と数学は習熟度別の少人数授業。 2年次、3年次は国語のみで取り出し授業。
母語支援	保護者面談時の通訳、保護者への通知の翻訳
キャリア支援	1年次 インターンシップ、ライフプラン発表会(将来の夢を発表)、企業見学会(外国籍等生徒のみを対象とした企業見学会) 2年次 進路相談会(就職・進学)、オープンキャンパス指導、デュアルシステム(選択授業) 3年次 企業見学/オープンキャンパス指導、面接指導
その他	

1.2 開発した日本語プログラム 授業名「IS日本語」

本プログラムは、1年次の日本語指導が必要な生徒を対象とする学校設定科目「IS日本語」の授業で実施する。プレースメントテストを実施して日本語の力によって、日本語指導が必要な生徒を3つのクラスに分け、それぞれ指導計画(シラバス)を編成して授業を実施するが、以下で紹介する年間指導計画は、3クラスの中で日本語の力としては一番低いクラス向けのものである。

(1) 年間指導計画(シラバス)

日本語の入門期から初級レベルの、語彙・文型の学習を、『まるごと入門AIリカイ』を利用して体系的に学習する。各課で設定されているトピックや生徒らの関心、また、文化的な差異や共通点を巡って「話す」活動、「聞く」活動を中心に、口頭コミュニケーション力を高める。リソースとしては、インターネット上の音声・動画素材の他、学校や地域に関する資料等も活用する。この学習の後に、生徒の多くが苦手とする「読む」「書く」力を強化するために、文章を書き、その文章を発表する「アウトプット」活動を行い、文章の読み書きを通して、自分の考えや意見を日本語で発表する力の向上も目指す。

また、プログラム後半には、キャリア教育の一環として行うインターンシップ活動とライフプラン発表会を関連づけて、プロジェクト型の日本語活動を行う。従来、これらの活動を日本語学習を切り離して行っていたために、日本語を学ぶ生徒たちは、日本の力を発揮する機会になっていなかった。そこで、本プログラムにおいては、インターンシップの場でのコミュニケーションや自己PRカード作成、参加記録、礼状を書く活動で、また、ライフプラン発表会では、自身の将来の夢のスピーチの準備や実際のパフォーマンスを日本語運用の活動として位置付けることにした。

利用する表現は『まるごと初級リカイ』から、それぞれの活動で生徒がインターンシップを実施する事業所での会話や自己の将来について語る上で必要な文型を抽出して取り扱う。また、実際の場面で必要な語彙・表現を精選する。

①目標

高等学校や地域社会において、生活上必要な語彙・表現を身につけ、日本語を使って自文化、出身国・地域の状況、日本文化、居住する地域の状況について話し合う活動を通じて、両者の良さを認めつつ、相互の文化を尊重しながら積極的にコミュニケーションを取ることができ、日本の行動規範等を理解して、安全にそして、安心して生活ができるようになることを目標とする。さらに、得られた情報をもとに自分の将来像を具体的に描き、その実現に向けて課題を設定し、自分の考えや気持ちを学んだ日本語で表しながら、その解決に向けて行動することができるようになることを目指す。

②年間指導計画(1科目分)

1 科目名・ 単位数(時間数)	IS(イズ)日本語 (2単位 70時間)		
2 対象生徒 10人程度	<p>滞日歴：数か月～1年程度。日本の中学校を経ずに、直接日本の高等学校に入学してきた生徒、または中学校3年生の途中で来日した生徒。</p> <p>日本語の力：日常会話の日本語があまり理解できていない。ひらがなやカタカナは既習であるが、一部読み書きが不正確なものがある。</p> <p>母語の力：読み書きともに年次相当の力を有する。</p> <p>教科等の力：国数英の3教科受験で入学し、社会・理科は未受験。 (教科に関しては、日本語では学んでいない)</p>		
3 履修学年	1年		
4 目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	学校・社会生活で必要な語彙や表現を身につけ、文化や行動規範等を理解し、安心して生活することができる。	得られた情報をもとに、自分の考えをもち、意見、気持ちを日本語で話したり書いたりすることができる。	日本語でのコミュニケーションを積極的に行うとともに、自らの課題を見つけ、その解決に取り組むことができる。
5 プログラムの タイプ	<p>(○)A(生活のための日本語) (◎)B(基礎日本語) ()C(技能別日本語) (○)D(日本語プロジェクト) 主なプログラム:◎ 関連付けて実施するプログラム:○</p>		
6 主なリソース	『まるごと 日本のことばと文化』入門 A1 りかい／初級1 A2 りかい 独立行政法人国際交流基金編著 三修社		
7 指導計画(シラバス)			
時	トピック・内容／主な活動／語彙・表現など 【 】内:『まるごと 入門 りかい』の課、『まるごと初級1 りかい』に関しては明示		
第1～2時 (2時間) 全体の活動	<p>プレイスメントテストの実施1：「聞く」「書く」 (日本語能力試験(JLPT)のN3～N4レベルの問題、平仮名やカタカナ、小学校1～2年生の漢字の力からレベルを確認)</p>		
第3～4時 (2時間) 全体の活動	<p>プレイスメントテストの実施2:「話す」「聞く」 (外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLAによる) → レベル別クラス編成 (本シラバスは日本語の力が最も低いクラスの内容)</p>		
第5～6時 (2時間)	<p>自己紹介、学校生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介を実施する。 ・学校生活に必要な語彙、ルールやマナーなどについて理解する。 		
第7～8時 (2時間)	<p>トピック1 にほんご</p> <p>①ひらがな「ひらがなを よみます／かきます」【第1課】</p> <p>②カタカナ「カタカナを よみます／かきます」【第2課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなとカタカナの読み・書き、ローマ字との対応関係 ・知っている語を仮名で書き表したり読んだりする。 		

	〔アウトプット〕 学校生活の楽しみなことや不安なこと(母語を介して作文)
第9～12時 (4時間)	トピック2 わたし ①どうぞ よろしく【第3課】 「わたしは～です」「わたしは～ができます」「わたしも～です」 ・初めて会った人との挨拶の練習。 ・国による初対面時のトピックの違いについての話し合い。 〔アウトプット〕 自己紹介(作文) ②かぞくは 3にんです【第4課】 「かぞくは～と～です」「～にすんでいます」「わたしの～は～です」 ・自分の家族について紹介し合う。 ・国による家族の呼称の違いを紹介し合う。 〔アウトプット〕 家族紹介(作文・発表)
第13～16時 (4時間)	トピック3 たべもの ①なにが すきですか【第5課】 「～がすきです」「～をたべます」「～をのみます」 ・好きな食べ物や飲み物について話し合う。 ・出身国・地域の食べ物を紹介する。 〔アウトプット〕 好きなこと／ものとその理由(作文) ②どこで たべますか【第6課】 「好きな～は～です」「～で～をたべます」「～はおいしいです」 ・近くの飲食店の場所、時間、メニュー、価格について、紹介し合う。 〔アウトプット〕 好きな食べ物とその思い出(作文・発表)
第17～20時 (4時間)	トピック4 いえ ①へやが 3つ あります【第7課】 「～に～があります」「～に～がいます」「～が～あります」「～は～いです」 ・どこに何がある／いるのか、どんなところに住んでいるのか、学校の周囲や自身の居住状況について話す。 〔アウトプット〕 自分の家について(話す) 自分のルーツがある国や地域の家と日本の家の比較(作文) ②いい へやですね【第8課】 「～は～の～です」 ・部屋の中にあるもの(家具等)の位置や大きさ・新しさについて、説明する。 〔アウトプット〕 教室について説明(作文・発表)
第21～24時 (4時間)	トピック5 せいかつ ①なんじに おきますか【第9課】 「なんじですか。～じです」「～じに～します」 ・自分や関心がある人の一日の行動・活動を紹介する 〔アウトプット〕 平日の1日について(作文)

	<p>②いつが いいですか【第10課】 「～は～じから～じまでです」「～じかん～します」「～ようびが～いいです」 ・1週間の予定や過ごし方について、スケジュール表を作成して紹介し合う。 〔アウトプット〕1週間の予定や出来事について(作文・発表)</p>
第25～26 時(2時間)	<p>テストとふりかえり1 ・学習した文字、語彙・文型に関するテストで学習成果を振り返る。 〔アウトプット〕日本語の学習や学校生活の振り返り(作文・発表)</p>
第27～30 時(4時間)	<p>トピック6 やすみのひ1 ①しゅみは なんですか【第11課】 「～がすきです」「～ができます」「～で～をします」「ときどき～します」 ・休日の過ごし方について質問し合う。 ・自分の趣味に関し、写真などを準備して紹介し合う。 〔アウトプット〕趣味とその理由や活動(作文) ②いっしょに いきませんか【第12課】 「～ようびに～があります」「～で～があります」「～をみにいきます」「～にいきませんか」 「いきましょう」 ・ロールプレイ「イベント情報を調べ友達を誘う」を行う。 〔アウトプット〕イベントに誘うメール文の作成(作文・発表)</p>
第31～34 時(4時間)	<p>トピック7 まち ①どうやって いきますか【第13課】 「～から～まで～でいきます」「～で～にのります」「～は～がいいです」「～から」 ・自宅・学校間、行ってみたい場所への交通手段や移動に係る時間について調べ、地図や図などを利用して説明する。 〔アウトプット〕目的地までの経路・交通手段の説明(地図と作文) ④ゆうめいな おてらです【第14課】 「ふるい～、にぎやかな～」「～に～があります」「～のとなり、～のまえ」「～は～にあります」「～は～にいます」 ・地図を利用し、位置や方位、建物の特長などを手掛かりに道案内をする。 〔アウトプット〕地元の名所への道案内文を作る(書く・発表)</p>
第35～44 時(10時間) 全体の活動	<p>インターンシップ 〔事前1〕事業所で行う自己紹介の準備をする。 「私は～にすんでいます」「私は～で～を勉強しています」【まるごと初級1第1課】 「趣味は～をすることです」「こどものとき、よく～をしました。」【まるごと初級1第2課】 ・訪問から終業まで、どのような会話が行われるか想像し、必要そうなあいさつや会話の練習を実施する。 ・「自己紹介」や「好きなもの」、「趣味」、「交通手段」について『自己紹介カード』に書き込む。 〔事前2〕インターンシップ先に提出する『自己紹介カード』を作成する</p>

	<p>「～はどんな～ですか」「～はしんせつでおもしろいです」「～はふべんだけどたのしいです」【まるごと初級1第5課】</p> <p>「～をしたいです」【まるごと初級1第10課】</p> <p>「～を、～てください」【まるごと初級1第6課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所を希望した理由や自己PR文を書き加え、『自己紹介カード』を完成する。 ・必要に応じ翻訳アプリなどを利用しつつ自分の言葉として適した表現を選ばせる。 ・事業所での自己紹介をロールプレイで練習する。 <p>〔事前3〕インターンシップ中に、困ったときに周囲に助けを求める</p> <p>「～ときどうしますか」【まるごと初級1第7課】</p> <p>「～するといいですよ」【まるごと初級1第15課】</p> <p>「～てもいいですか」【まるごと初級1第14課】</p> <p>「～かたがわかりません」【まるごと初級1第9課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ中、どんなことで困るか考え、その時周囲に援助を求める練習をする。 <p>〔実施〕インターンシップ実施(最大3日間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語で(必要に応じて母語で)メモを取る。 ・毎日、体験した出来事に対する感想を書き残す。 <p>〔事後〕インターンシップ後の振り返りと礼状作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験した出来事に対する感想を、日本語でまとめ、発表し合う。 ・礼状を作成して送る。定型表現や構成を理解し、利用する。
<p>第45～48 時(5時間)</p>	<p>トピック8 かいもの</p> <p>①かわいい!【第15課】</p> <p>「～がほしいです」「～に～をあげます」「～に～をもらいました」「～をかいました」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近買った物について紹介し合う。 ・友人や家族の誕生日や記念日に、何をプレゼントしたいか、あるいは自分なら何をもらいたいか話し合う。 <p>〔アウトプット〕欲しいモノとその理由について(作文)</p> <p>②これ、ください【第16課】</p> <p>「これは いくらですか」「この～をください」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店の定員と客として、シミュレーション活動をする。 <p>〔アウトプット〕近くの和菓子屋のメニューを見て、注文する(注文時の会話を書く・会話を)</p>
<p>第49～52 時(4時間)</p>	<p>トピック9 やすみのひ2</p> <p>①たのしかったです【第17課】</p> <p>「～にいきました」「～はたのしかったです」「～はにぎやかでした」「～はどこにも いきませんでした」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先週の出来事や、旅行の思い出を、資料を示しながら紹介し合う。 <p>〔アウトプット〕楽しかった出来事(作文)</p>

	<p>②つぎは きょうとに いきたいです【第 18 課】</p> <p>「～。それから、～」「～。でも、～」「～。そして、～」「～にいきたいです」</p> <p>・旅行計画を立て、接続表現を使って説明する。</p> <p>〔アウトプット〕 旅行したい場所と経路とその理由(作文・発表)</p>
第 53～54 時(2 時間)	<p>テストとふりかえり2(第 27 時～52 時)</p> <p>・学習した文字、語彙・文型に関するテストで学習成果を振り返る。</p> <p>〔アウトプット〕 日本語の学習や学校生活の振り返り(作文・発表)</p>
第 55～66 時(12 時間) 全体の活動	<p>ライフプラン発表会(将来の夢の発表)</p> <p>〔事前〕 発表用のスライドと発表原稿を作成し、発表の準備をする</p> <p>「～たことがありますか」「～ですが、～です」【まるごと初級1第 13 課】</p> <p>「～て、10 年になります」【まるごと初級1第 14 課】</p> <p>「～ためにどんなことをしていますか」「～たり、～たりしています」【まるごと初級 1 第 16 課】</p> <p>「～と思います」【まるごと初級 1 第 18 課】</p> <p>・将来の夢とその実現のために調べる必要があることをブレインストーミングする。</p> <p>・実現のためのプロセス、要件を調べて、図にまとめる。</p> <p>・プレゼンテーションの内容構成を決める。</p> <p>・スライドと発表原稿を作り、スライドを利用しプレゼンテーションの練習をする。</p> <p>〔実施〕 ライフプラン発表会(聴衆:1 年次生全員)</p> <p>・プレゼンテーションを実施する</p> <p>〔事後〕 ライフプラン発表会後の振り返り</p> <p>・事前準備から発表までのプロセスや発表時のパフォーマンスに関して振り返る。努力した点・工夫した点・改善したい点を日本語でまとめ、発表し合う</p>
第 67～68 時(2 時間) 全体の活動	<p>習熟度テスト : 「聞く」「書く」</p> <p>(JLPT のN3～N4レベルの問題、平仮名やカタカナ、小学校1～2年生の漢字などの力を把握)</p> <p>→ 4月に実施したプレイスメントテストの結果と比較する。</p>
第 69～70 時(2 時間)	<p>1年間の振り返り、次年度に向けた目標づくり</p> <p>・1 年間の日本語の学習について振り返りを実施し、日本語でまとめる。</p> <p>・次年度の目標を決め、達成のための計画を立てる。</p>
8 評価方法	<p>知識・技能</p> <p>プレイスメントテストの正答の伸び率(4月と3月の比較)</p> <p>学校生活の過ごし方</p> <p>思考・判断・思考力</p> <p>授業中の話し合いの内容(自身の考えや意見)が含まれているか。</p> <p>作文や発表〔アウトプット〕、キャリアプラン発表会の成果物やパフォーマンスに、表現の工夫がみられるか。</p> <p>学びに取り組む態度</p>

	<p>授業内での話し合い活動への参加の積極性</p> <p>インターンシップや学校生活において、課題を設定し、日本語で情報を得たり、周囲に相談するなどして解決に取り組んでいるか。</p>
--	---

(2) 授業の基本的な流れ(1時間で、1言語項目を取り扱う授業の場合)

前時やこれまでに学習した語彙・表現や仮名・漢字の読み書きの復習(展開1)をしたのち、この日の言語事項の学習を行う。テキスト『まるごと』の写真や絵等を利用しつつ、その時間に取り扱う語彙や文型の導入をする。どんな意味で使うのか、どんな文法や語順のルールがあるのかが分かるようにする。次に、口頭で正しく話せるように、パターン練習を行う。その後、学んだ語彙や文型を、生徒自身のことや関心のあるトピックに関する質問と応答等で、運用する練習をする。できれば、タスクを設定して、その遂行のために語彙・文型を使う活動を行うようにする。最後に、学習した内容に関連するトピックや問いを立てて、作文をしたり、それを発表し合ったりする。

<1時間の授業の基本的な流れ>

展開	活動
1 復習	前時までに学習した語彙や文型・例文の復習をする。
2 語彙確認	この日の文型等の学習に合わせて学ぶ語彙を導入し、発話(読み)練習する。
3 文型導入	新たな文型を知り、その意味と構造・文法の理解を確認する。
4 口頭練習	<p>新たな文型を使った例文を、次のパターンで繰り返し練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リピート練習 ・代入練習 ・変換練習 ・結合練習 ・文づくり ・Q&A <p>文型を利用したコミュニケーション練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身のことについてのQ(質問)&A(応答) ・トピックを設定した話し合い ・場面と役割を決めたロールプレイ ・ゲームやクイズ ・課題(タスク)(例:旅行の計画を立てて友達を誘う)
5 作文・発表 (アウトプット)	上記の活動で話し合ったり、説明したり、計画したり、想像したことを、学習した表現を利用して作文する。また、その作文を発表して、感想を話し合う。

※作文は提出を求め、日本語の内容や誤字脱字を添削し、漢字で書いて欲しい部分にマークを入れ、書き直しを求める。発表として、自分が書いた文を読み、友達の作文を聞いて理解する活動を行う。